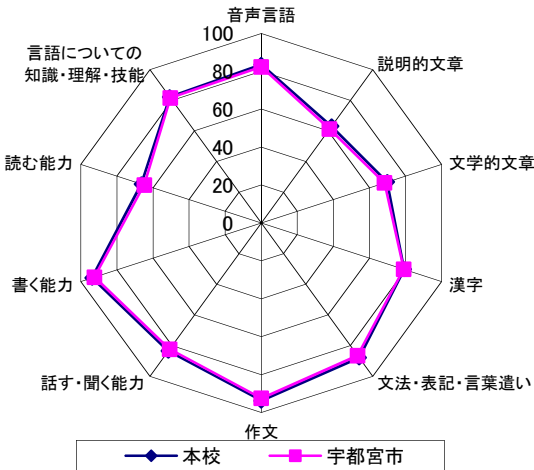


宇都宮市立旭中学校第1学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	83.5	82.3
	説明的文章	63.1	61.3
	文学的文章	69.9	68.4
	漢字	79.3	79.1
	文法・表記・言葉遣い	87.9	86.5
	作文	93.8	92.5
観点別	話す・聞く能力	83.5	82.3
	書く能力	93.8	92.5
	読む能力	66.5	64.9
	言語についての知識・理解・技能	82.2	81.6



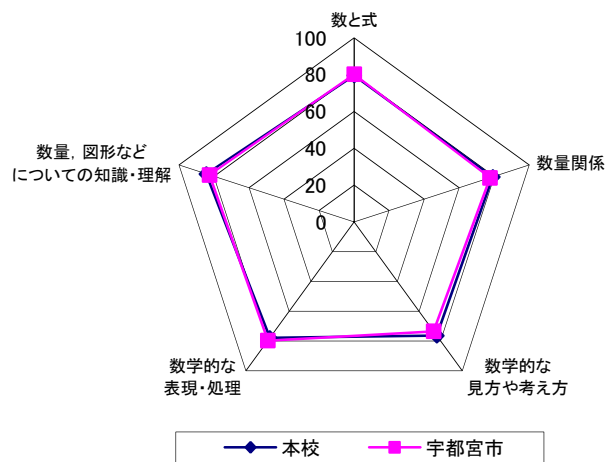
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (83.5%)	昨年度は宇都宮市と比較して上回っていた「話の趣旨の聞き取り」が1.9ポイント下回ってしまった。ほかの項目では上回っているので、全体的には宇都宮市を1.2ポイント上回っている。	・授業の始めの時間を使って「聞き取りテスト」を定期的に行い、話の趣旨をとらえたり、話の流れに即して内容を理解したりする能力の向上を図っていきたい。
説明的文章 (63.1%)	「文脈に即した内容の理解」では宇都宮市を上回っているが、「文章の要旨」の項目だけが下回っている。全体的には1.8ポイント上回っている。	・筆者の主張をとらえるために、段落ごとのキーワードや中心となる文を見つける訓練を積み重ねていきたい。キーワードにチェックを入れたり、中心となる文に線を引かせるように、普段の授業からも意識させたい。
文学的文章 (69.9%)	「登場人物の心情」に関してはよく読み取れている。宇都宮市と比べても上回っている。しかし、「登場人物の動作の理由」を問う問題の正答率は市を1.6ポイント下回っている。全体としては1.5ポイント上回っている。	・登場人物の発言や動作と心情の変化には密接なかかわりがあることに気付かせるようにする。授業での読み取りの学習の際に、特に表現の顕著なものにはポイントを絞って説明を加えるようにする
漢字 (79.3%)	「漢字の読み」に関しては市よりもポイントを上回っている。「漢字の書き取り」では、「座」という漢字が12.4ポイントも下回っている。全体では0.2ポイント上回っている。	・漢字の小テストを随時行うことで、生徒の漢字に対する学習意欲の向上につなげるようにする。 ・授業でも意図的に漢字を使って文章にまとめることを取り入れていく。
文法・表記・言葉遣い (87.9%)	「文節の分け方」に関する問題に対しての正答率が市と比べて3.0ポイント下回っている。「漢字の部首」に関しても下回っており、「文法・語句」に関する問題は不得意であるといえる。全体では1.4ポイント上回っている。	・文法の学習以外の時にも、ワークシートや学習プリントなどを活用して復習する機会を作っていくようにする。
作文 (93.8%)	言語の用法に関する作文では市を上回っているが、意見の記述に関する問題では下回っている。「無回答」の割合は低く、作文の問題に対する意識は高い。全体では1.3ポイント上回っている。	・学校行事についての感想文や体験文などを書く機会を設定するなど国語の教科指導だけにとどまらず、連携を図る。

宇都宮市立旭中学校第 1 学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と式	79.5	80.2
	数量関係	79.2	77.6
観点別	数学的な見方や考え方	76.4	73.5
	数学的な表現・処理	77.8	79.7
	数量，図形などについての知識・理解	84.4	82.6



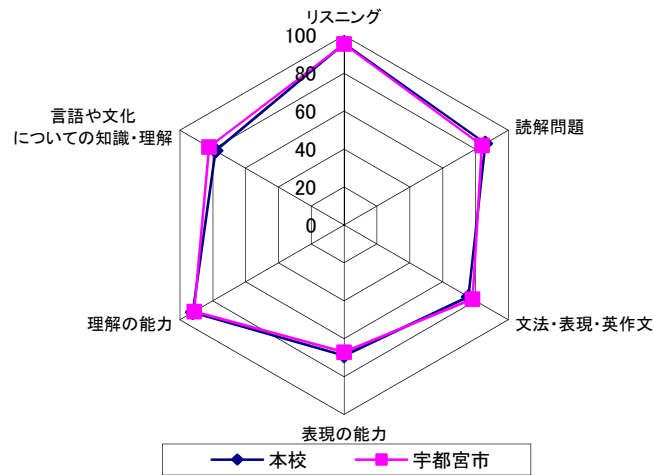
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式 (79.5%)	・宇都宮市と本校を比較した場合、0.7ポイント下回っている。 ・18問中7問が市よりも正答率が低く、特に文字式の計算においては、正答率の落ち込みが大きく、今後の指導が必要である。	・例題をよく理解させ、類似問題にたくさん挑戦させることにより、基本的な内容、考え方を身に付けさせることが大切であると思う。定着を図れるように支援していく。
数量関係 (79.2%)	・宇都宮市と本校を比較した場合、1.6ポイント上回っているが、10問中2問が市よりも正答率が低かった。 ・比例・反比例では、与えられた条件から式を見つける問題の正答率が低い傾向である。	・数と式の領域と同様、例題をよく理解させることにより、基本的な内容を身に付けさせるとともに、ともなって変わる2つの数量の間の関係を規則性として捉え、様々な場合について活用できる応用力を身につけられるよう指導していく。

宇都宮市立旭中学校第1学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	リスニング	95.7	95.5
	読解問題	86.0	84.0
	文法・表現・英作文	75.8	78.2
観点別	表現の能力	68.9	67.1
	理解の能力	92.3	91.4
	言語や文化についての知識・理解	78.3	82.3



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング (95.7%)	宇都宮市と本校を比較した場合、市の平均を0.2ポイント上回っているものの、天気を探る問題では、2.3ポイント下回る結果となった。	・今後も、AETとのTTを充実させ、生徒が出来るだけ多くの生の英語に触れられるような機会を積極的に取り入れたい。 ・単元ごとにポイントとなる英文だけではなく、既習内容や、日常的に使用されるような英語での質問を、授業の中に積極的に取り入れ、聞き取りにくかった箇所などの確かめもしっかり行うようにしたい。
読解問題 (86.0%)	読解問題全体としては、市の平均を2.0ポイント上回っていた。対話の流れを問う問題では、8.2ポイント上回る問題もあった。	・今年度は、毎時間授業開始時にペアワークを取り入れた活動を行った。それにより、既習の基礎表現が定着したものと思われる。 ・今後は、実用的な英文(英会話)を積極的に取り入れた授業を展開するとともに、教科書を離れた英文を積極的に取り上げ、英語で書かれた物語を読む楽しさを味わわせたい。
文法・表現・英作文 (75.8%)	この領域では、市の平均を2.4ポイント下回った。特に、単語の並べ替え英作文の中の、(How Who Which) train goes to Shinjuku?と疑問詞を選ぶ問題では16.2ポイント、Does Mike have breakfast every day?—No.(have doesn't he)の並べ替えの問題では、12.0ポイント下回った。これは、学習はしたものの、反復学習時間の不足が大きな原因と言える。	・教科書を離れた内容(英文)を取り上げる時間がほとんど無く、又Speaking PlusやMulti Plusなどの内容を復習する時間が十分に確保出来なかったため、市の平均を大きく下回ったもの(問題)があったと思われる。 ・今後は、文法や英作文の問題を復習する時間を確保するとともに、下位の生徒への基礎力定着を図るための授業を展開したい。